

科目名	専門演習 I Seminar I						
科目担当者	出山 実 IDEYAMA Minoru						
単位数	4	配当年次	2年	授業形態	演習	開講学期	通年
履修学部・学科 [区分]	経営学部・経営学科 [専門教育科目 演習]				ディプロマポリシーとの関連	(3)(4)	
授業の概要	<p>会計学の強みは、「測ることによって改善できる」ことです。近年の会計学の役割は、従来の利益計算や企業実態の報告だけにとどまらず、気候変動問題や人権問題、ガバナンス問題などを、どのように測って伝えていくのかという「企業と社会の持続可能性」にまで広がりを見せています。そこで、本演習では、企業経営と会計学の基本的な学びを復習したうえで、持続可能性に関わる諸問題をテーマに設定し、学びを深めていきます。</p> <p>本演習の進め方は、毎回、テーマを設定し、その内容についてグループ学習を行います。各グループの報告を受けて、ゼミ生全員でディスカッションを行います。なお、新聞の経済記事に関する討議も合わせて行います。</p>						
授業の到達目標	<p>①経営学と会計学の基本的な理論を身に付ける。 ②持続可能性に関する諸問題について理解する。</p>						
授業計画・内容	1	オリエンテーション：新・現代会計入門	16	オリエンテーション：社会のなかの会計			
	2	報告と討議<1>現代の企業会計	17	報告と討議<1>歴史の中の簿記会計			
	3	報告と討議<2>企業会計の本質	18	報告と討議<2>簿記とは何か			
	4	報告と討議<3>企業のディスクロージャー	19	報告と討議<3>キャッシュフローの簿記会計			
	5	報告と討議<4>損益計算書のパラダイム	20	報告と討議<4>損益計算とキャッシュフロー			
	6	報告と討議<5>経営パフォーマンスの測定	21	報告と討議<5>複式簿記のサイエンス			
	7	報告と討議<6>貸借対照表のパラダイム	22	報告と討議<6>企業会計の基本的な考え方			
	8	報告と討議<7>資産の会計	23	報告と討議<7>会計ビックバン①			
	9	報告と討議<8>持分の会計	24	報告と討議<8>会計ビックバン②			
	10	報告と討議<9>金融商品の会計	25	報告と討議<9>変容の全体をどう見る			
	11	報告と討議<10>従業員給付の会計	26	報告と討議<10>変容の形と方向			
	12	報告と討議<11>連結グループの会計	27	報告と討議<11>新たな会計秩序を求めて			
	13	報告と討議<12>企業結合の会計	28	報告と討議<12>トライアングル体制の変容			
	14	報告と討議<13>グローバリゼーションの会計	29	報告と討議<13>経済のグローバル化と会計			
		15	前期まとめ	30	後期まとめ		
授業外学修 (事前学修)	<p>報告者：担当箇所のテキスト（及び新聞記事等）を要約し、報告の準備をしてくる（3時間） 報告者以外：教科書（及び新聞記事等）の対象範囲を読んできて、討議の準備をしてくる（2時間）</p>						
授業外学修 (事後学修)	<p>演習での討論を受けて、どのような話し合いがあったのか、自分はどのように考えるかについてまとめる（2時間）</p>						
成績評価方法・ 評価比率・到達 目標との対応	成績評価方法			評価比率	到達目標との対応		
	報告と討議			100%	①②		
成績評価基準	<p>秀：（評点 90 点以上）到達目標を極めて高い水準で達成している場合 優：（評点 80 点～89 点）到達目標を高い水準で達成している場合 良：（評点 70 点～79 点）到達目標を一定の水準で達成している場合 可：（評点 60 点～69 点）到達目標を最低限の水準で達成している場合 不可：（評点 60 点未満）到達目標に達していない場合</p>						
教科書	<p>稲盛 和夫『稲盛和夫の実学 経営と会計』日本経済新聞社 伊藤 邦雄『新・現代会計入門』日本経済新聞社 石川 純治 他『新訂・社会のなかの会計』放送大学</p>						
参考文献							
その他	<p><どのような学生の受講が望ましいか> ・会計の分野に興味がある学生 ・応用レベルの会計知識を身につけたい学生・将来、経理・財務担当者、銀行員、商業科の教員になりたい学生 <あらかじめ受講して欲しい科目> 会計学、簿記論（or 上級簿記） <併行して受講して欲しい科目> 経営分析、財務諸表論、管理会計論、原価計算論</p>						